

令和4年度 経営戦略事業評価調書（工業用水道事業 2 / 2）

基本方針	工業用水の安定供給	所管課	工業用水道課
方針概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良質で安価な工業用水を安定的に供給することにより、企業の生産活動を支え産業振興に寄与する。</li> <li>・安定的な供給のため、老朽化・耐震化対策に取り組み、自然災害等の不測の事態に備えた危機管理体制の強化を図る。</li> </ul>		
取組項目及び概要	1 管路の老朽更新・耐震化	・管路の腐食状況等について調査し、適切な更新時期を検討するとともに、耐震性の劣る管については、計画的に耐震管に更新する。	
	2 施設の強靱化	・施設の重要性や劣化度合いにより優先度を設定し、耐震化計画を策定する。	
	3 投資の合理化	・施設等の更新について、今後の工水需要を踏まえ、施設規模や更新時期について多角的に検討する。	
	4 更新需要への対応	・施設規模の適正化を図るとともに、投資の合理化にも留意し、計画的な改修を実施する。	

<目標の達成状況・評価結果>

「取組項目(上段)」 「目標(下段)」	区分	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R11)	達成率	評価結果
1 管路の老朽更新・耐震化	目標値	51 %	51 %	51 %	60 %	100 %	A
○管路耐震化率（室蘭工水）	実績値	51 %	-	-	-		
設定理由	北海道企業局経営戦略及び北海道強靱化計画に基づき、工業用水道の安定供給に必要な施設(設備)の状況を測るうえで、管路の耐震化を成果目標として設定。						
主な取組と成果（評価がDの場合はその理由）							
令和元年度までに改修事業を実施した結果、管路耐震化率は51%となった。今後、老朽更新による管路の耐震化には、費用の平準化を図りながら計画的に実施する必要があるため、改修計画の検討を進めた。							
翌年度に向けた取組							
令和5年度からの配水管老朽化調査の実施に向け、引き続き改修計画の検討を進める。							
改善策（評価判定がB・Cの場合のみ記載）							

「取組項目(上段)」 「目標(下段)」	区分	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R11)	達成率	評価結果
1 管路の老朽更新・耐震化	目標値	60 %	62 %	64 %	67 %	100 %	A
管路耐震化率（苫小牧工水）	実績値	60 %	-	-	-		
設定理由	北海道企業局経営戦略及び北海道強靱化計画に基づき、工業用水道の安定供給に必要な施設(設備)の状況を測るうえで、管路の耐震化を成果目標として設定。						
主な取組と成果（評価がDの場合はその理由）							
平成23年度までに改修事業を実施した結果、管路耐震化率は55%となった。令和元年度からは、苫小牧地区工業用水道第二期改修事業で配水管布設工事を実施しており、令和3年度までに改修予定区間7.5kmのうち、約2.8kmを施工した。							
翌年度に向けた取組							
令和4年度は、苫小牧地区工業用水道第二期改修事業において、配水管布設工事を約1.8km施工予定である。							
改善策（評価判定がB・Cの場合のみ記載）							

「取組項目(上段)」 「目標(下段)」	区分	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R11)	達成率	評価結果
1 管路の老朽更新・耐震化	目標値	78 %	78 %	78 %	79 %	100 %	A
管路耐震化率 (石狩工水)	実績値	78 %	-	-	-		
設定理由	北海道企業局経営戦略及び北海道強靱化計画に基づき、工業用水道の安定供給に必要な施設(設備)の状況を測るうえで、管路の耐震化を成果目標として設定。						
主な取組と成果 (評価がDの場合はその理由)							
平成11年度に完成した石狩工水は、建設時に耐震管を採用したことにより、管路耐震化率は78%であるが、譲渡を受けた配水管には耐震性がないものがある。今後の老朽更新による管路の耐震化は、費用の平準化を図りながら計画的に実施する必要があるため、改修計画の検討を進めた。							
翌年度に向けた取組							
令和5年度に配水管路更新調査を実施して、具体的な管路の耐震化の改修計画の検討を進める。							
改善策 (評価判定がB・Cの場合のみ記載)							

<その他の取組・成果等>

取組項目	2 施設の強靱化 (施設の耐震化計画の策定)
主な取組と成果	
苫小牧工水の耐震診断結果を踏まえた補強対策や老朽化対策などを考慮した施設の改良方法について検討を行った。	
翌年度以降の取組	
室蘭・石狩工水の耐震補強調査を実施し、施設の健全度、重要度及び影響度などから優先順位を設定し、耐震化計画を策定する。	

取組項目	3 投資の合理化 (工水需要を踏まえた管路口径の変更等を検討)
主な取組と成果	
工水需要について、関係機関との情報交換などにより、動向把握のための情報収集を行った。	
翌年度以降の取組	
引き続き、工水需要の動向把握を行い、新たな配水管改修計画の策定時に工水需要を踏まえた管路口径・施設規模の検討を行う。	

<最終評価結果>

令和4年度 最終評価意見	目標の達成状況はすべてA評価 (100%以上)であり、今後も取組を着実に進め成果を上げていく必要がある。
-----------------	--